



MP RACING

NAPAC FUJI SUPER TEC 24 Hours Race

SUPER TAIKYU SERIES 2021 Powered by Hankook Round 3

- カテゴリー : スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook ST-X クラス
 エントラント : MP Racing
 カーナンバー : 9
 マシン名称 : MP Racing GT-R
 ドライバー : JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・松田次生・元嶋佑弥・井上恵一
 大会名称 : スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第3戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24時間レース
 レース時間 : 24 時間
 開催地 : 富士スピードウェイ (静岡県)
 開催日 : 2021.5.21~2021.5.23
 天候 : 雨 (5.21) 曇り~晴れ (5.22~23)
- 公式予選 : 降雨により中止
 決勝 : 規定周回数不足 (24:02'20.496 / 473 周)



スーパー耐久第3戦” NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース (24H)” が5月21日から23日にかけて静岡県の富士スピードウェイで開催された。

今回は大会名にある通り、シリーズでもっとも過酷な24時間耐久レースである。

富士24Hではレース時間の長さから最大6名のドライバー登録が可能ということで、レギュラードライバーのJOE SHINDO、柴田優作、影山正美、井上恵一に加え、松田次生と元嶋佑弥の2選手が今回MP Racingに加入した。

第2戦までの間、随所で速さを見せるも不運に見舞われ思うような成績を残せなかったMP Racing。24Hはチャンピオンシップポイントを挽回できる最大のチャンスであることから、国内外で活躍するドライバーを加え必勝体制で挑むこととなった。

5月20日(木) STEL 専有走行

従来のシリーズ戦同様、公式スケジュール前日となるこの日はS耐専有走行が行われた。

この日の富士スピードウェイは曇り空。

10時20分から専有走行が設けられ、MP Racingは前回の菅生大会でのクラッシュからの修復直後ということで、まずは確認のためのインストラクションチェックを行なった。

柴田のチェック走行の後、JOE～元嶋～JOEの順に序盤のセッションを周回。

午後は天候が崩れるとの予報があり、インターバルに設けられたスポーツ走行枠も使ってドライコンディション下でのテストスケジュールを積極的に消化していった。



午後に行われた専有走行 2 回目は予報通り雨が降り、ウェットコンディションで行われた。このセッションでは序盤は JOE を中心に、後半は影山、元嶋、松田がドライブして 24 時間レースに向けての準備に当てた。

5月21日(金) 公式予選

あいにくの雨模様となった予選日。本来であれば正午から公式予選が行われるはずであったが、雨量が多くコースコンディションが回復しない。

ディレイが続いた結果、15時10分に全ての予選セッションの中止が発表。

決勝スターティンググリッドは規則によりランキング順となった事で MP Racing は第3戦の決勝を5番手からスタートすることが決まった。

5月22日(土)~23日(日) 決勝

曇り空に包まれているものの、ドライコンディションで迎えた 24H 決勝。

フォーメーションラップを終え、15時00分45秒にいよいよ過酷な 24H のスタートが切られた。MP Racing のスタートドライバーは松田が担当。

松田はスタートを決め、ポジションを2つあげて3位で1コーナーに侵入。その後果敢に攻めてトップに立つ。



スプリントレースさながらの激しい序盤の首位争いを制し、43周を終えた松田は最初のスティントを終えてピットイン。

ピットストップを終えて復帰したMP Racingの第2スティントはJOEがドライブ。既に速度差の違う他クラスが入り乱れているコース上でJOEは#999 NSXとのバトルを展開する。ST-Xクラスはジェントルマン規定としてAドライバーが24時間のうち最低3時間36分を運転しなければならないため、まずこのスティントで1時間28分のドライブを終えた。

17時45分、JOEがピットイン。この頃には曇り空ということもあり、周囲はかなり暗くなってきた。次のスティントは影山が担当。レースはまもなく3時間を経過しようとしていた。

影山はタイヤと燃料消費のマネジメントを巧みに行いつつ、1分43~44秒のラップタイムで周回。途中ピットインを挟み連続スティントを担当した。

第3スティント後半、時刻は18時35分を迎えここからナイトセッションに突入。ライトによる光の帯が幻想的な情景を織り成す反面、夜間の高速度域でのドライブはドライバーにとって過酷な時間帯へと突入した。

20時22分。連続スティントを終えた影山がピットイン。柴田に交代した。

柴田も連続スティントを担当。221周を終えてタイヤ交換と給油を行いコースに復帰。

ここまでは順調に進んでいたMP Racingだったが、248周目にまさかの出来事が起こってしまう。300Rを走行中、バックマーカーを交わそうと進路を変更した柴田。死角にいたST3クラスのマシンに接触してしまう。



姿勢を崩した柴田はスピン。高速コーナーであったことも災いし、かなりの勢いでウォールにヒットしてしまう。

柴田に大きな怪我がなかったことは幸いであったが、このクラッシュにより MP Racing GT-R は大きなダメージを負った。

富士 24H はレース中に救済措置としてコース上で動けなくなった場合、車検場横に設置されたリペアエリアに送られての修復が可能となっている。

リペアエリアに送られた MP Racing GT-R はレース続行が不可能と判断されてもおかしくないほどのダメージを負っていた。

しかし MP Racing のメカニックはすぐに状況を判断し、まずは自走でピットガレージに戻るまでの応急作業を行なった。

リペアエリアで取り急ぎサスペンションと駆動系の部品を交換。懸命の作業は約 3 時間に及んだ。

応急処置を終え、ピットガレージへと戻った MP Racing GT-R はここから本格的な修復作業へと移った。

修復作業は大規模なものとなったが、チーム全員がレースへの復帰を諦めることなく懸命に作業を進めていく。

クラッシュから約 8 時間。富士スピードウェイは既に夜が開けて朝を迎えていた。6 時 17 分、MP Racing GT-R は修復作業を完了してレースに復帰。柴田によるチェック走行が完了した後、ドライバーを元嶋に交代する。



今週末が初の MP Racing GT-R ドライブとなる元嶋、初のロングランながら 2 スティント連続を
 確実かつ安定して周回して自身の役目を果たした。

8 時 50 分、元嶋から松田へとドライバーを交代。

復帰後、元嶋も松田もレースラップは非常に良く、順調に見えた矢先、MP Racing GT-R は駆動が
 かからないというトラブルによりダンロップコーナーでマシンをコースサイドに止める。

再びリペアエリアに送られた MP Racing GT-R。右リアのサスペンションを構成するボルトが折れ
 てしまっていた。

トラブル箇所の迅速な判断と処置により、リペアエリアでの作業はそれほど時間を要せず、作業を終
 了した MP Racing GT-R はピットガレージに戻ってきた。

リペアエリアでの作業も含めて約 1 時間 45 分の作業を終え、MP Racing GT-R は再度レースに
 復帰。柴田がチェック走行を担当し、その後 JOE に交代する。

その後は JOE~柴田~JOE と特に問題もなく残り時間を走りきり、15 時 01 分 10 秒に 24 時間
 レースの終わりを告げるチェッカーフラッグを受けた。

周回数不足により順位認定はされなかったが、チーム一丸となって大きな苦難を乗り越えた MP Racing
 の 2021 年第 3 戦はこれで終了した。



今回は我々にとって非常に厳しい24Hとなってしまいました。
 体制を整えても簡単に上手くいかないことは分かっていましたが今回改めて思い知らされました。
 しかし大きな困難にあっても、”最後まで諦めない”という気持ちを持って、チーム全員がレース終了まで言葉に出さずとも向かっていったこと。
 この事を強く再認識できたことは我々にとって非常に大切なことであります。
 次戦よりシリーズ後半戦になりますが、毎戦全力で勝利を目指し、過程を価値のあるものとなるよう、
 これまで以上に頑張るつもりです。
 引き続き皆様のご声援、ご支援を賜りますようお願いいたします。

